



〒614-8011 京都府八幡市八幡垣内山 47
Tel 075-981-2496 / fax 075-981-5896

はじめに

この号の内容

- 1 はじめに
- 2 観光復興全般
- 3-4 観光復興全般 質問
- 5 観光復興全般 答弁
- 6 観光復興全般 答弁と要望
- 7 観光復興全般 再質問
- 8-9 観光復興全般 再質問答弁

おはようございます。

八幡みらいクラブの鷹野雅生です。
しばらくの時間、おつき合い願います。

今回の一般質問は、原点に戻り、観光振興と八幡市駅前整備について、改めて質問させていただきますので、具体的なご答弁をいただきますようお願い申し上げます。

それでは、通告に従い、質問させていただきます。

"GASHINとは"

GASHINの心は鷹野雅生の雅を使い、私のいち早いお知らせの「信」であり「真」を述べ、私の「心」を語らせていただきたいと願っております。

選挙スローガン

「観たくなるまち、来たくなるまち、住みたくなるまち」

伝統ある八幡市議会の質問席に立たせていただくようになって、はや5年になろうとしています。5年前の初質問の日のこと、質問内容も覚えています。

私が、選挙スローガンとして掲げました「観たくなるまち、来たくなるまち、住みたくなるまち」の実現に向け、今日まで本市の観光振興を柱に据えて、八幡市駅前の整備計画も含め、繰り返し質問させていただいてまいりました。

八幡市のまちの将来を大きく左右する観光振興の基本方針と八幡市駅前の整備についての質問に対し、いただいた答弁は八幡市総合計画で示しておられるように、広域交流機能の誘導や周辺環境の整備充実を目指し、南口周辺の駅前整備については、将来において踏切のバリアフリー化や狭い道路の解消、ターミナル機能の整備を進めていくとし、現在進めている橋本駅周辺整備事業を優先して整備を進め、今後この事業のメドがついた段階で、改めて検討を行いたいとのことでした。

八幡市駅北側エリアについての答弁は、現在、京都府において御幸橋の架け替えに伴う市道のつけかえ、八幡市によるその跡地を活用した市の北玄関となる広場整備、さらに国土交通省による淀川三川合流域の拠点施設であるサービスセンターの設置などの計画が進んでおり、八幡市駅東側の放生川踏切の拡幅については、八幡市駅東側の京阪電鉄踏切は歩道がなく、朝夕などは自転車や歩行者の車両との接触事故も危惧されている状況にあり、この踏切の改良について、京阪電鉄にただしたところ、電車運転上の技術的な問題から、路面を平坦にすることは困難である。また、拡幅についても、相当な費用が必要であるとのこと。しかし、通行者の安全確保、八幡市駅南北の円滑な往来路確保に向けて、踏切拡幅は今後の課題であると認識しているとの答えがあったと理解しています。

本市北部の交流拠点として、ターミナル機能や防災空間を持ち合わせた駅北地区の整備について、現在どのように進んでいるのでしょうか。

また、現在、駅前広場にはタクシーや送迎の自家用車などが停車しており、観光バスの通行すら支障があるように思います。

まして、観光バスから観光客をおろすための駐車場所もなかなかありません。

京都市を初め、その周辺の宇治市や乙訓地域までバスで来られている多くの観光客に、もう一歩足を伸ばして八幡市までお越しいただくためにも、観光客が乗り降りできるための観光バス停車スペースの確保が必要だと思います。

これまで、八幡市駅前の整備に関して、積極的な答弁はいただいておりません。観光振興についても、今こそ前向きに取り組んでいただきたい条件が整ってきていると考えます。観光振興の大切さを理解し、その重要性を十分に認識していただき、駅前の再開発につながっていくような具体策を展開していただきたいと願っています。

観光振興に対する市の考え方一つで、これからのまちが大きく変わってきます。我がまち八幡市には、石清水八幡宮を初め、松花堂庭園、流れ橋、背割堤など、ほかでは類を見ない観光スポットがたくさんあり、今後ますます観光の充実を図るためには、市の玄関口である八幡市駅前の整備が必要不可欠だと考えます。

八幡市駅のすぐ近くには、緑豊かな自然があります。特に関東地方から来られた観光客の多くは、改札を出てすぐに山がある。ケーブルカーの乗り場がある。この風景に感動されると聞いたことがあります。近くには、石清水八幡宮の頓宮があります。徒然草にも登場する高良神社においては、夏の八幡の夏祭りである高良神社のちょうちん献灯事業や、夏の訪れを告げる八幡の里の風物詩として、広く八幡市民に定着している太鼓まつりも行われています。

観光復興全般 質問

さざなみ公園では、太鼓橋を中心に、市民のイベントも開催されています。たいこ橋さざなみフェストも、その一つです。16年間積み重ねてまいりました。この放生川一帯を、八幡市のシンボルゾーンの一つにさせていただきたいという強い願いを持っております。

第4次八幡市総合計画の中には、放生川の再生を含め、八幡市駅周辺を八幡市北部交流拠点と位置づけています。

駅周辺の整備と放生川の再生は、大変重要な課題ではないでしょうか。

総合計画の実現のためにも、駅前と放生川の景観を大きく改善する必要があると思います。

八幡市駅前から放生川一帯がきれいになれば、八幡市のイメージは随分よくなると思います。市民の憩いの場所、観光客が何度も訪れたい場所になると思います。重ねて申しますが、私が観光をテーマに毎回質問をしてまいりましたのも、八幡市にある豊富な観光資源が、これまで十分に生かされていないことを残念に思うからです。

京都市、宇治市から南部に広がる自治体の中では、八幡市はどこにも負けていません。つい先ごろ、飛行神社が大きくクローズアップされました。

あのMRJ、戦後初の国産旅客機YS11に次ぐ、期待を担ったMRJジェット機が初飛行の前に、関係者がわざわざ参拝したのであります。

MRJとともに、飛行神社がクローズアップされました。

観光資源に足りないところがあれば、知恵を出してつくり出し、八幡市に観光客を呼び寄せ、1度来た観光客をリピーターにする努力をすることが、市に課せられた喫緊の課題だと考えています。

観光資源に足りないところは知恵を出し、つくり出しと申しましたが、先ほどの飛行神社などは、つい気がつかずにいる八幡市の誇るべき観光資源と位置づけるべきです。

今後も多くの観光客が来られる中で、八幡市の玄関口である八幡市駅前周辺を、お正月や桜の季節だけでなく、もっとにぎわいのある環境にしていかなければいけないと思います。

年間5,564万人を超える観光客の訪れる京都です。

これを、よそのにぎわいとせず、八幡市まで誘い込むなど、観光に全力を注ぐことによって、観たくなるまち、来たくなるまち、住みたくなるまちが実現すると考えます。

そこでお伺いします。まず最初に、観光復興全般についてお伺いします。

質問

+++++ 観光客誘致 +++++

②観光客について

⇒より多くの観光客に八幡市へ来てもらうためには、何が必要で、どのようなことをしなければならぬと考えておられるのかお聞かせください。

②観光誘致のための奨励金施策について

⇒観光ブームで、観光誘致のための奨励金施策を、各自治体で活発にされていますが八幡市においても導入されてはどうでしょうか。お考えをお聞かせください。

観光復興全般 質問

質問

+++++ 駅前整備 +++++

①南口周辺の駅前整備について

⇒我がまち八幡には、石清水八幡宮、松花堂庭園、流れ橋、背割堤など、ほかでは類を見ない観光スポットがたくさんあります。
今後、ますます観光の充実を図るためには、市の玄関口である八幡市駅前の整備が必要不可欠だと考えます。
そこで、南口周辺の駅前整備について、今後どのようにされようとしているのか。具体的に教えてください

②北口の整備について

⇒現在、南口はタクシーや送迎の自家用車などが停滞しており、観光バスの通行すら支障があるように思います。
まして、観光バスから観光客をおろすための駐車場所もなかなかありません。
本市北部の交流拠点として、ターミナル機能、防災空間を持ち合わせた駅北地区の整備について、現在、どのように進んでいるのか。
観光客の乗りおりのための観光バス停車スペースの確保も含め、どのようにお考えか教えてください

+++++ 石清水八幡宮 +++++

①最大の観光スポット石清水八幡宮について

⇒この年末にも、石清水八幡宮が国宝に指定されようとしています。
まことに喜ばしいことであります。
私が、以前にも、JR東海の広報ポスターに石清水八幡宮が取り上げられたことはJR東海の炯眼であり、見る目があると申したとおりになりました。
本市にとって、石清水八幡宮の位置づけについてどう見ておられるのか、どう考えておられるのか。また、国宝に指定されたことにより、どのように変わっていくのかお聞かせください。

②国宝に指定された事について

⇒国宝に指定されたことにより、どのように変わっていくのかお聞かせください。
さらに、国宝化に伴い、ハード面の取り組みは必要と考えますが、ハード面の整備以外に、当面どのような取り組みを考えておられるのかお聞かせください。

+++++ 京阪八幡市駅前 +++++

①八幡市駅前の活性化について

⇒今後どのような取り組みが必要であると考えておられるのかお伺いします。
そして、市は何をしなければならないのか。その点もお考えをお聞かせください。

観光復興全般 答弁

答弁

+++++ 観光客誘致 +++++

②観光客について

⇒観光客のさらなる誘致についてでございますが、より多くの観光客を呼び込むためには、日本人観光客だけではなく、外国人観光客にも力を入れていく必要があると考えます。関西国際空港における本年4月から9月、上半期の外国人旅客数は532万人で、前年より65%増加しております。

本市におきましても、春の八幡桜まつりでは、外国人観光客を見かけるようになってまいりました。

東京オリンピックの開催時には、さらなる訪日外国人の増加が見込まれ、京都、大阪を訪れる外国人観光客を呼び込むため、英語での案内や観光施設案内所でのWi-Fiの整備など、順次対応していく必要があると考えております。

②観光誘致のための奨励金施策について

⇒市では、平成26年度から市の自然や歴史文化などを生かした観光誘客やより一層の観光の魅力づくりなど、市内において観光の振興を図ることを目的として団体等が行う事業に対し、助成しております。

+++++ 駅前整備 +++++

①南口周辺の駅前整備について

⇒八幡市駅周辺整備方針は、第4次八幡市総合計画で広域交流機能の誘導や周辺環境の整備を方針に掲げ、取り組み内容をお示しし、市道橋本南山線の延伸事業、橋本駅前周辺整備などとともに、優先順位を決めて行う計画としてまいりました。

今回の石清水八幡宮の国宝指定や背割堤での桜まつり、またサービスセンターの設置計画が進むなど、八幡市駅周辺への来訪者は、今後ますます増加するものと考えております。

八幡市駅南側エリアが、本市観光の起終点にふさわしい場となるよう、また賑わいのあるエリアとなるようなまちづくりを行っていきたいと考えており、今後、土地所有者も交えて協議を進めることとし、現在、その調整を行っているところです。

②北口の整備について

⇒八幡市駅北側エリアの整備につきましては、これまでも断続的にその方向性や可能性の検討を行ってきた経過がございます。

この結果、八幡市駅北側のエリアの整備の重要性や必要性とともに、エリア内の個々の敷地面積が小さなことから、区画整理の手法では減価補償地区が生じ、事業成立が困難である例もわかっております。なお、減価補償地区とは、従前地の面積が小さく、区画整理事業に伴う減歩が行われることで面積が減るなど、事業完了後の当該当地の価値総額が施行前の価値総額より減少する地区を示します。

今後、サービスセンターの設置や、市道科手土井線移設跡地の広場の整備計画を進める中、改めてその整備の可能性についての検討を進めていきます。

観光復興全般 答弁と要望

答弁

+++++ 石清水八幡宮 +++++

①最大の観光スポット石清水八幡宮について

⇒石清水八幡宮が建築史並びに文化史上の価値を高く評価され、喜ばしいこと
でございます。八幡市のまちは、石清水八幡宮の門前町として栄え、時代とともにまち
の様相は変化してまいりましたが、石清水八幡宮はその原点にあると考えます。
国宝に指定されたことに伴い、今後來訪者が増加し、将来的には、八幡市のまちが
石清水八幡宮の門前町としてのにぎわいを取り戻せればと考えております。

②国宝に指定された事について

⇒国宝化に伴う当面の取り組みといたしましては、駅前の観光案内板の改修や横断
幕を設置して、石清水八幡宮をPRしてまいりたいと考えております。

要望

京阪八幡市駅南側、北側の整備について、前向きなご答弁をありがとうございました。
調整なり協議なりを進めるとしてありますが、誠意ある対応とともに、リーダーシップを
持って、時代の進展におくれることのないように、強く要望させていただきます。

観光復興に関しましては、八幡市観光基本計画を上げ、近年の観光動向が変化している
こと、物見型観光から体験型観光、いわゆる着地型観光、さらには物語観光への必要性を
指摘されております。

これに、本市が具体的にどう対応されていかれるかが、喫緊の課題だと認識しています。

堀口市長には、来春、市民の審判を仰がれますので、審判を受けた後に、より踏み込んだ
アクションプランを、プログラムをご提示いただけるものと理解いたしました。
したがって、私が申し上げたいのは、質問であると同時に、強い要望として受けとめていただ
きたいのですが、質問の中で申しましたとおり、日本、特に京都に大勢の観光客が来られて
います。したがって、本市を取り巻く状況が大きく変わっていることです。

上半期におけるインバウンド 1,500 万人という訪日観光客、そして、本市における石清水八幡
宮の国宝昇格を千載一遇のチャンスと捉え、本市の観光政策も、新たな構想をもとにグランド
デザインを構築すること。そして、あわせてグランドデザインに基づく個々の細やかな施策を
実施していただきたいと願っています。

そこで何点かお伺い致します。

観光復興全般 再質問

質問

① グランドデザインについて

⇒グランドデザインの必要性をどのように考えておられるのかお伺いします。

②観光地としてのブランドを確立することについて

⇒今回の石清水八幡宮本殿の国宝昇格も、観光面から考えれば、八幡市の観光地としてのブランド力が飛躍的に上がったことを意味しています。

今までは、国宝が市になかったわけですから、国宝めぐりなどを行っている今まで来なかった人たちも確実に来てくれます。観光客はやはり知名度のある場所や、そこでしか味わえない、見られないものを求めてきている人が多いと思います。

観光地として成功しているまちは、やはりまちのブランド化に成功しています。

九州の由布院や黒川温泉も、近年になって温泉観光地としてのブランド化に成功し、今では多くの観光客が訪れています。

地域が観光地として魅力あるものになり、そして、継続的に発展することで、そこにお住いの市民も、地域にある宝物、魅力を再認識し、新たに発見できる楽しみを持っていただきたいと思います。また、ほかの地域の人に感動してもらったり、喜んでもらったりして、そこから生まれる地域の愛着や誇りを、いかに持っていかかが観光の本質だと思います。

地域を知り、育て、さらに誇りを持つことができれば、結果として、八幡ブランドになるのではないかと考えています。

そういったまちづくりが必要でないかと感じますが、いかがでしょうかお伺いします。

②積極的な観光復興について

⇒外国人観光客を呼び込むため、英語での案内やWi-Fiの整備、また石清水八幡宮の国宝化に伴う取り組みとして、案内板の改修や横断幕の設置など、答弁をいただきました。

これだけでいいのでしょうか。八幡市に来ていただいた観光客のみを対象とした取り組みで、来ていただく観光客をふやすための取り組みは考えていただいているのでしょうか。

受け身になっている感じがすると思うのですが、観光協会との連携はどのようにされているのでしょうか。積極的な一歩前に進む取り組みが、観光振興には絶対必要であると思います。改めて八幡市の観光振興をどのようにしていけるのか。市長にお伺いしたいと思います。

③最後に・・・。

⇒京都を訪れる観光客は5,564万人を超えています。日本、そしてありがたいことに、京都にも予想以上に観光客がふえています。そこへ、石清水八幡宮も国宝になります。

今こそ前向きに取り組んでいただきたい条件が整ってきていると考えます。

真剣に取り組んだら、成果が出ると思います。八幡市には、それだけの観光資源があります。今は、観光を取り巻く環境が変わってきています。観光基本計画をつくったときと、かなり状況が変わってきています。本格的に観光に力を入れるのかどうか。32年前に整備した八幡市駅前のロータリーには、観光バスが乗り入れるスペースが狭く、老朽化が進んで美観も損ね、観光客を迎える玄関口の役割は果たしていません。観光施策とセットにした早期の駅前整備が不可欠だと考え、観光振興、八幡市駅前整備について、ぜひとも積極的に取り組んでいただきたいと思います。

観光の振興は、まちの発展につながります。市長のお考えをお伺いします。

観光復興全般 再質問の答弁

答弁

観光復興におけるグランドデザイン、それから八幡ブランドの確立、さらには当面の課題として、Wi-Fi整備、それから英語での案内ではちょっとしょぼいのではないかと、さらには観光資源についてさらに活用するというご質問、基本的には1点ですね。

いかに八幡市の観光を進めるかということで、平成26年3月に策定いたしました観光基本計画に基づいて行うというのが基本だと思っています。

ただ、少し変わっておりますのは、例えば東日本大震災後のインバウンドは、たしか日本国全体では600万人台だったと思いますが、今年は恐らく1,900万人に乗るか、もしくは2,000万人はいかなくとも、1,800万人後半から1,900万人までいくと思われ、約3倍に伸びているとのこと。

インバウンドのこの状況をいかに受けとめるのかと。それを八幡市として見たときに、平成25年度に策定したわけですが、それは十分かという問題提起も含めてだったと思います。

私は、観光につきましては、恐らく、一定の面積と、それから指標としての人口、20万人から50万人というのが1日留まっていたか一つの指標としてあるのではないかなと考えます。それぐらいあれば、各種の施設もある程度整っている中で、自前の観光というのは考えられるのではないかと。ただ、残念ながら7万人ということですので、恐らく山城地域全体の地域連携を前提にしながら、八幡市の恵まれた観光資産をどのように活用するのかという形で取り組まなければならないと思っています。

その際にアピールするものとして、八幡市観光基本計画では、「ときめきとものがたりが奏でる ふれあいのまち やわた」と、いわゆる物語観光への移行を基本として申し上げます。ただ、その中でも、平成25年から平成30年を目標値にしていますが、例えば観光入込客数が27%ほどアップするという数値を挙げておりましたり、観光消費額が34%アップするなど、目標としては掲げております。

一方では、入込客数が増える中でやっているわけですが、それは山城地域全体での観光消費額から比べるとかなり低い。これを高める努力も、今の現計画の中でしなければならないのではないかと等々、思っているところでございます。

ですから、新たな国内、それから国外の状況を踏まえてやることも大切ですが、観光基本計画をベースにまずやらないといけないのではないかと。そして、八幡ブランドの確立につきましては、私が思っておりますのは、市民の皆さんと協働で取り組まなければなりませんけれども、お土産の問題とかもやはり必要ではないかと。これは、ある方にお聞きしましたけど、八幡市に来たけども、買う土産がないよねということをおっしゃっておられたことも聞いております。ですから、食べ物以外にも含めて、そういうものもあわせて開発していく必要があるだろうと思っているところでございます。

ただ、Wi-Fiの整備とか英語のできる者は、少なくとも国内とともに国外の方についての観光の基本であります。今現在、今年度予算では、八幡市役所周辺を災害関係とともに整備する予算を計上させていただいておりますけれども、基本的なことをまずしなければならないのではないかと。

観光復興全般 再質問答弁

また、残念ながら、英語で十分案内できる人は、まだ八幡市の観光協会にはいないということですので、これは、私が観光関係の本を読んだときに、やはり外国人の方で共通語は英語だったら、中国の方を迎えたら中国語があれば望ましいのしょうけども、案内の体制、インフラを整えないと、来てよねと言っても、なかなかそれは難しいのではないかと書いてありましたので、まずはこれに取り組む必要があるのではないかと考えているところです。観光協会ができないということならば、その辺のところの方策を考えなければならないと思っています。

ですから、八幡市の観光資源を十分、石清水八幡宮の国宝化を通じて再認識して、さらに改めて観光について見直して、力を入れていく必要があるのではないかと考えています。まちづくりについても、当初は、橋本駅周辺をまずしてと考えていました。ただ、石清水 八幡宮の国宝化がなった中では、少なくとも修景を含めたところについては、取り組む必要があると考えており、地権者との協議等の準備をしたいと考えています。